

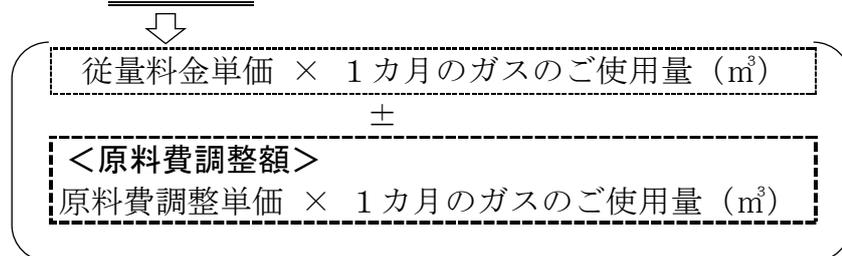
## 原料費調整制度の見直しについて

## 【原料費調整制度】

- 原料費調整制度は、為替レートやLNG（液化天然ガス）・プロパンガスの原料価格の変動を迅速にガス料金へ反映させる制度です。
- 毎月のガス料金は、基本料金および従量料金の合計額です。
- このうち従量料金は、使用量にもとづいて算定し、原料費調整単価に使用量を乗じた原料費調整額を加算または差し引きして計算します。

## 《ガス料金の算定方法》

$$\text{ガス料金} = \text{基本料金} + \text{従量料金}$$



- 原料費調整額の算定に用いる原料費調整単価は、基準平均原料価格（66,310 円/t）と、貿易統計値（LNG、プロパンガスの原料価格）により算定する3カ月間の平均原料価格との差にもとづき毎月算定し、2カ月後のガス料金に反映します。

平均原料価格の算定期間						適用するガス料金					
2022年 6月	2022年 7月	2022年 8月	2022年 9月	2022年 10月	2022年 11月	2022年 12月分	2023年 1月分	2023年 2月分	2023年 3月分	2023年 4月分	2023年 5月分
7~9月の平均原料価格			→			2022年 12月分 ガス料金					
8~10月の平均原料価格				→			2023年 1月分 ガス料金				

## 《現在の原料費調整単価の算定方法》

プラス調整の場合

$$\left( \text{平均原料価格} - \frac{\text{基準平均原料価格}}{66,310 \text{ 円/t}} \right) \div \frac{100}{\text{円/t}} \times \frac{\text{基準単価}}{0.084 \text{ 円/m}^3} \times \left( 1 + \text{消費税率} \right)$$

※平均原料価格が基準平均原料価格（66,310 円/t）の1.6倍の上限価格106,090 円/tを上回る場合には、106,090 円/tで原料費調整単価を算定する。

マイナス調整の場合

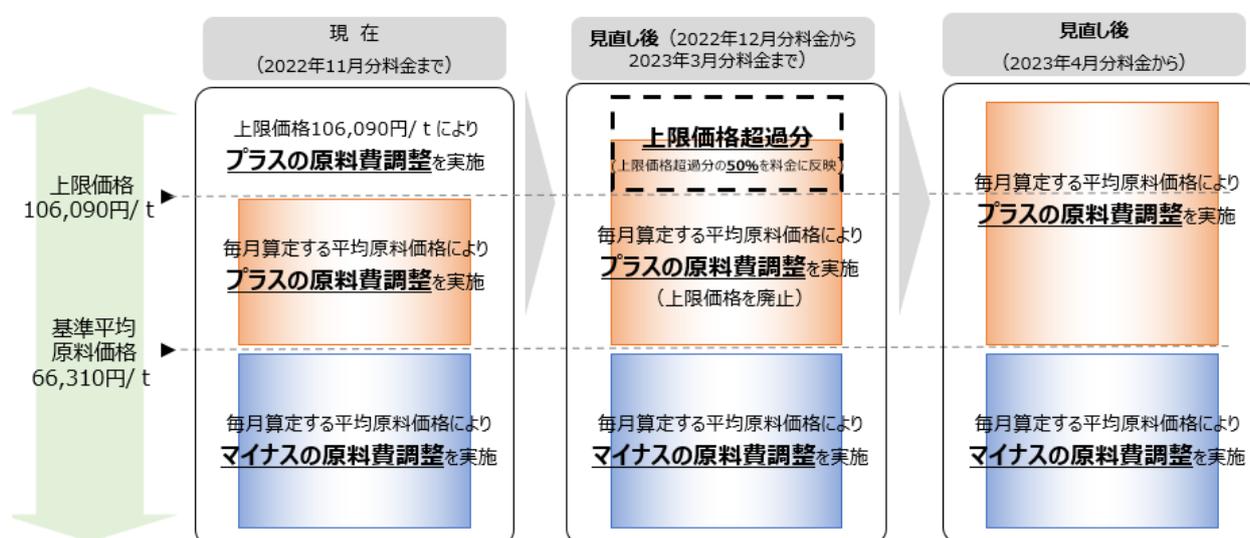
$$\left( \frac{\text{基準平均原料価格}}{66,310 \text{ 円/t}} - \text{平均原料価格} \right) \div \frac{100}{\text{円/t}} \times \frac{\text{基準単価}}{0.084 \text{ 円/m}^3} \times \left( 1 + \text{消費税率} \right)$$

## 【見直しの概要】

- 現在、原料費調整単価の算定において、平均原料価格が基準平均原料価格（66,310円/t）の1.6倍の上限価格（106,090円/t）を上回る場合には、上限価格により原料費調整を行っていますが、2022年12月分のガス料金から、その上限を廃止します。

なお、2022年12月分料金から2023年3月分料金までは、現行の平均原料価格の上限を超えた場合、超えた額の50%をガス料金の算定に反映します。

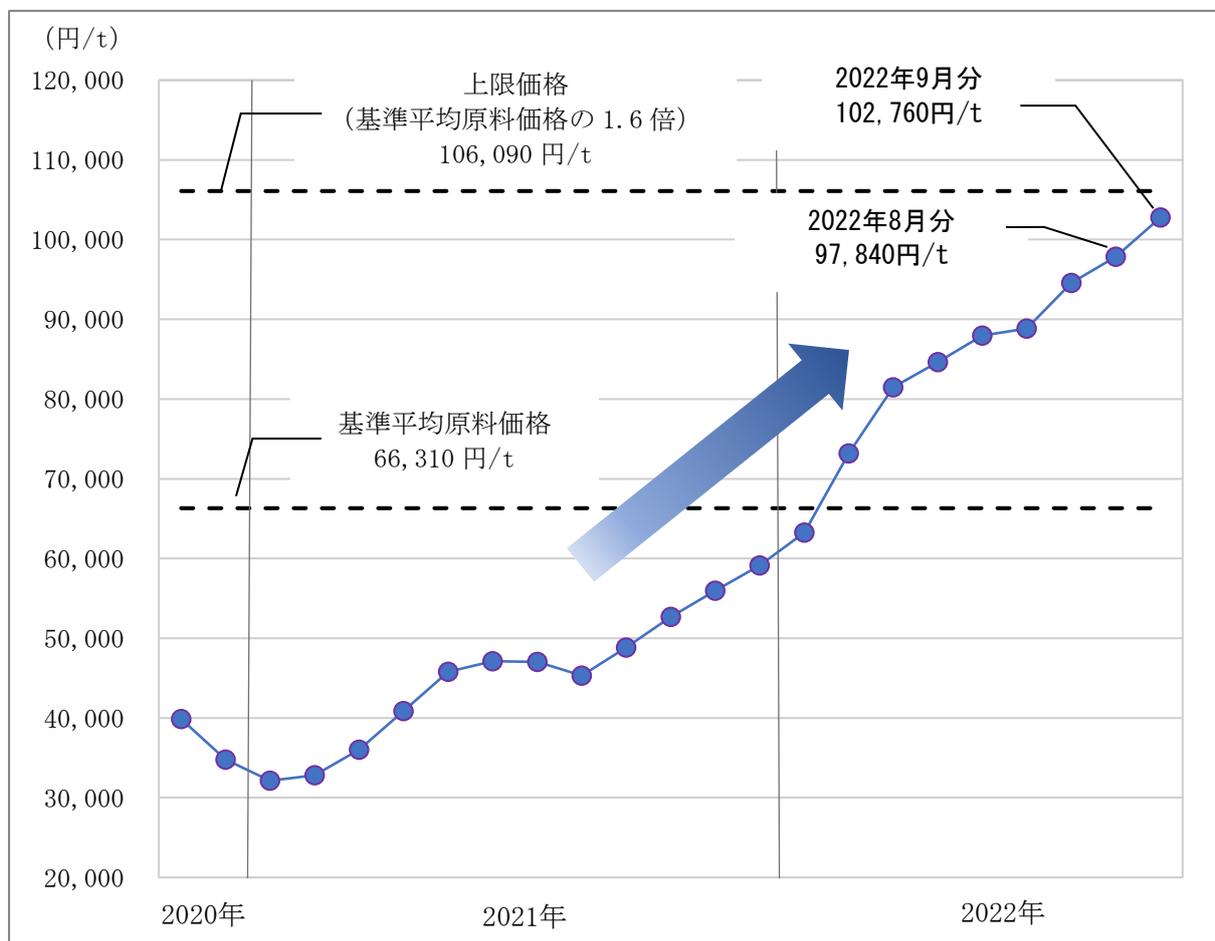
（見直しイメージ）



### 【平均原料価格の推移】

- ・現在、世界のエネルギー情勢が不安定となっている影響から、至近の原料価格は高水準で推移しています。

平均原料価格の推移：2020年11月分～2022年9月分



以上